

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2172400273
法人名	大和産業株式会社
事業所名	グループホーム 垂井だいわ福寿の杜
訪問調査日	平成21年2月8日
評価確定日	平成21年3月11日
評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 2月23日

【評価実施概要】

事業所番号	2172400273		
法人名	大和産業株式会社		
事業所名	グループホーム 垂井だいわ福寿の杜		
所在地 (電話番号)	〒503-2123 岐阜県不破郡垂井町栗原372-1 (電話) 0584-23-0978		
評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会		
所在地	岐阜県羽島市竹鼻町狐穴719-1 はしま福祉サポートセンター内		
訪問調査日	平成21年2月8日	評価確定日	平成21年3月11日

【情報提供票より】(20年12月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 3月 30日
ユニット数	2 ユニット
職員数	18 人
利用定員数計	18 人
常勤 11 人, 非常勤 7 人, 常勤換算 14.3 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート耐火住宅 造り
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	52,300 円	その他の経費(月額)	1,500 円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	130 円	昼食	200 円
	夕食	260 円	おやつ	50 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(12月31日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	7 名	要介護4	5 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.7 歳	最低	75 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	西美濃厚生病院、あいはら医院、カワサキ歯科医院
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム 垂井だいわ福寿の杜は養老山脈の麓の静かな集落に建っており、ホームの窓からは四季折々の山の姿が楽しめる。開設して3年となり、地域住民との交流が具体的な形になってきている。民生委員や自治会代表を通して地域の情報が伝えられ、お互いの行事に積極的に参加し合っている。最近では、ホームの行事に地域の老人から子どもまで参加している。事務長、施設長及び管理者は、日常的に職員全員との話し合いをしており、利用者本位の支援に丸となりケアを行っている。また、家族等の協力が必要不可欠であることも職員全員が周知しており、家族等への報告は、面会時や郵送等にて綿密に行っていることはもとより、ホームの行事にも参加者多い。利用者はホームのゆったり、ゆっくりをテーマにした優しい日々の支援に、伸び伸びとした生活を楽しんでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善事項は2項目で、地域とのつきあいについては、施設長や民生委員の努力があり地域住民との交流が盛んになっている。近隣で火事があった際、職員が一番に駆けつけたことによりホームが地域の一員として認められている。災害対策については、消防署と協議しながらの取り組みをしている。さらに、地域の災害訓練に地域住民と一緒に参加することなども検討している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価を受ける体制が、事務長、施設長及び管理者が応接しており、評価がサービスの質の向上に如何に大切かを認識している。自己評価についても、ホーム全体のことと捉えており、職員全員で話し合っ作成している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月に1回、定期的に運営推進会議を開催し、参加委員から活発な意見が出ている。意見や提言は会議録に記録し、職員にミーティングで報告すると共に、ホームの運営に反映させている。民生委員や自治会代表のお陰で地域のつきあいが盛んになっている。また、垂井町の他のグループホームの施設長がお互いの運営推進会議に参加し合い、良い取り組みを自分のホームに活かしていることも大きな特長である。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ホームの方針として、家族等の協力が必要不可欠であることを職員全員に周知しており、家族等への報告は、面会時や郵送等にて綿密に行っている。入居時や面会時にホームの相談体制や窓口、意見箱の設置などを分かりやすく何度も説明している。運営推進会議や面会時に出てきた意見は、職員とミーティングで協議し、ホームの運営に反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>利用者がホームでどう暮らしたいか、日々の生活を如何にエンジョイしたいかを、常に本人や家族から聞き出し、利用者本人の思いに沿った支援をしている。散歩や買い物、喫茶店、理美容院等地域に出かけることが日常的に行われており、あいさつ等の言葉かけを積極的に行っている。開設3年目で地域との交流が盛んになり、地域の行事に参加したりホームの行事に地域の老人から子どもまで参加している。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	分かりやすい文言で明示された理念は、利用者がホームや地域で生活を楽しめるものとなっている。ホームのたよりに毎回理念を載せ、家族への報告や自治会に回覧して、地域の方にもホームがこの理念に沿って支援していることを啓発している。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	施設長や管理者は、ミーティング等、職員が集まることで、常に復唱しており、また、名札の裏に理念が載せてあり、職員全員が理念に沿って、本人本位及び地域住民との交流を大切にされた支援を行っている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議で民生委員や自治会代表が地域の状況を話し、地域住民にホームのことを伝えてもらったことで、地域住民との交流が盛んになっている。また、利用者が散歩や買い物、喫茶店、理美容院等へ出かけるときはあいさつ等積極的に話しかけを行っている。近隣に火事があった際、ホームの職員が一番に駆けつけたことがきっかけで、地域に溶け込めるようになった。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	事務長や施設長、管理者は、自己評価や外部評価がホームのサービスの質の向上に大切であることを認識しており、職員にも意義や目的を説明すると共に、職員全員での取り組みとしている。また、自己評価での気付きや外部評価結果等をミーティングで話し合い、改善に向けた取り組みをしている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1回定期的に開催している。参加者の民生委員、自治会代表、役場担当者、家族等から活発な意見が交換されている。会議の様子は会議録に記録され、ミーティングで他の職員に報告をしている。また、垂井町の他のホームと運営推進会議に参加し合い、お互いに切磋琢磨してサービスの向上に繋げている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事務局長や管理者は、開設時に役場担当者から、開設場所が垂井町の一箇所に片寄らない地域での指導、要望でこの地域での開設になった。それ以来、役場担当者とは連携を密にしており、日常的に情報の交換を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームは、何よりも家族を大切に思い、家族の協力がホームの運営に欠かせないことを認識しており、家族への報告は内容の深いものにしていく。本人のホームでの暮らしぶりや健康状態、金銭管理について、報告を面会時や手紙・ホームのたより・写真等で連絡を取っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事務局長や施設長、管理者は、家族からの意見を大切にしている。面会時やホームの行事、家族会等で出される意見や提言を記録し、ミーティング等で職員全体で協議し、ホームの運営に反映させている。また苦情や不満については、入居時や面会時に繰り返しホームの相談体制や窓口、意見箱の設置等説明をしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設して3年になるが、離職者が1人しかいない。産休や育児休暇、とっさの休暇も取りやすい体制が出来ており、職場の士気高揚に繋がっている。職員の離職が少ないことが利用者や家族の信頼となり安心感を与えている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画が出来ており、職員は内外の研修を受講する仕組みが出来ている。実践者研修や実践リーダー研修の受講者も多く、職員の技術のレベルも高まっている。研修後に復命書やミーティングでの報告をしており、職員全員が情報の共有が出来ている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入しており、協議会後も交流を続けている。また、垂井町のグループホームとの交流を積極的に図っており、お互いの運営推進会議に参加しあうなどサービスの質の向上に向けた取組みをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所希望者に、体験入所やホームの見学をして貰っている。また、日常的に施設を開放しており、地域の住民が日ごろから施設を訪れるなど、職員や利用者との馴染める環境が出来ている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	事務局長や施設長、管理者及び職員全員が、理念に沿ったケアを行うことが、本人と共に暮らし、支えあえる関係が出来ると確信しており、利用者の尊厳を尊重したケアで、日々の暮らしが楽しいものとなっている。ゆっくり、ゆったりとした利用者本位のペースの生活となっている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日ごろの生活の中での会話から、本人がホームでどのような暮らしをしたいか、今日は何をしたいか等意向の把握に努めている。また、家族の面会時に家族の希望や要望も聞くようにしている。散歩や買い物、喫茶店、理美容店など利用者の要望には、その都度応じている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、職員全員で作成している。個人記録及びフェイスシート、簡易評価スケール、各種チェック表、ケアの目標達成評価などから情報を主治医、看護師、ケアマネージャー、職員及び関係者で協議し、利用者、家族に希望に沿った介護計画となっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月に1回のモニターリングで状況把握を行い、利用者や家族の意向を把握しフロー会議で介護計画の見直しを行っている。必要に応じて随時見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院への通院介助や美容院、床屋への送迎など利用者の希望に沿った支援を行っている。また、帰宅願望のある利用者への自宅への送迎を支援している。		
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に説明を行い、ホームの協力医療機関を利用して頂いているが、家族による送迎を基本として馴染みのかかりつけ医に受診することもできる。ホーム医には月2回の往診に来てもらうなど、医療機関との連携をとっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期については家族、協力医療機関、職員間での方針を話し合っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員同士で言葉遣いなどのチェックを行うなど利用者を尊重した対応を心がけており、声かけなどでは利用者の目線まで腰を落として行っている。個人情報については、鍵のかかる部屋で管理を行っており、面会簿も他の面会者がわからないように配慮されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩やぬりえなどの利用者の希望を聴き、一人ひとりにあったペースで支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物や食事の準備、配膳、片付けなど利用者と共に 行っている。買い物では利用者の好みの食材を聴き、 献立に反映している。また、利用者と職員と一緒に食 事を食べ、楽しい雰囲気大切にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわず に、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入 浴を楽しめるように支援している	予定の入浴日はあるが、利用者の状態や希望によりい つでも入れるようにしている。入浴を拒む人に対しては 声かけ等を行いなるべく入っていただくようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一 人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみご と、気晴らしの支援をしている	得意分野の食事の準備や片付け、畑の世話など利用 者の生活歴を活かした役割・楽しみごとの支援をして いる。エステや音楽療法、フラワーアレンジメントなどを 定期的開催し利用者の楽しみとなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその 日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援 している	利用者の希望により散歩やドライブ、買い物などに 出かけるようにしている。また、近所の喫茶店や美容院、 床屋などにも出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵 をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけない ケアに取り組んでいる	居室に関しては鍵を掛けていない。鍵をかける事 の弊害を理解しており、玄関には以前は鍵を掛けてい なかつたが、現在は不審者が目撃されるなど安全を考 慮して止むを得ず鍵を掛けている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず 利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより 地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホームの災害対策は行っているが地域住民と共同 での開催は行っていない。地域の火災訓練などには参 加を予定しており、実際に近所でボヤが起きた時には 職員も消火に参加した。	○	運営推進会議の場や民生委員などと協力し、地域住民と 一緒に災害訓練を行うことを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	買い物の時など利用者の好みを聴き、買い物を行うようにしている。食事の量、水分量などチェックや血液検査の結果を元に医師からの指導を受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の壁画を掲示してあるなど、家庭的な雰囲気となっている。夕方になると利用者がカーテンを閉めるなど利用者と共に居心地のよい空間作りを行っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者が使い慣れたタンスや写真、仏壇などを持ち込まれ、利用者の居心地のよさに配慮している。		